資料2

流域治水に関する取組について

令和4年7月13日
北上川下流河川事務所

旧北上川河口部復旧復興事業完成

- ○ 旧北上川河口部の河川堤防等が完成したことから、令和4年4月23日（土）に完成式を開催。
- ○ 沿川の復興まちづくりの基幹となる河川堤防等の整備が完成したことにより、津波発生時の浸水被害の軽減など、安全で安心な『まちづくり』が大きく前進。
- ○ 被災地の新たな商工観光・産業・工業用地の基盤整備など地域の賑わいの創出、産業の再生に寄与。

【東日本大震災復旧復興事業】
◇旧北上川堤防整備
事業内容：堤防整備L≒15.0km
事業費　：約1，100億円

▲セレモニー（くす玉開披）の様子

▲「地域の声」発表の様子
（株）街づくりまんぼう
苅谷　智大　氏

▲「地域の声」発表の様子
大橋地区
鈴木　皓達　氏

【被災後（平成23年3月）】

【復旧復興状況（令和4年3月）】

◀かわまちテラスの賑わいと
ブルーインパルスによる
展示飛行

東日本大震災から10年余りの復旧復興の完成を祝うと共に、川湊（かわみなと）石巻の新たな賑わい拠点の誕生を広く知っていただくため本式典を開催。

水防拠点　吉田川志田谷地防災センター　完成

- ○ 令和元年東日本台風で大規模な浸水被害が発生した大崎市鹿島台志田谷地地区の水防災拠点において、吉田川志田谷地防災センターの共同事業（大崎市、国土交通省）が完成したことから令和４年５月９日（月）に鍵の引き渡し式を開催（大崎市の関係者、指定管理者など１７人が参加）
- ○ 大崎市は地域の一時避難場所の確保、水防活動の体制強化など、国は災害対策車両の分散配備、排水活動の体制強化などを目的として整備を実施。
- ○ 行政区長は、『防災センターが完成したことで災害時は一時避難所として使用する他、平常時には、敬老会など地域の交流活動を行いたい。』『防災センターができたことで、地区の方々も安心・安全に生活できる。』と期待の言葉を話した。
- ○ 水防災拠点建築工事の早期完成及び、子供向けの防災教育の動画の作成など地域貢献にも取り組んだ、株式会社　丸本組へ大崎市から、感謝状の贈呈も執り行われた。

吉田川志田谷地防災センター　完成写真

鍵の引き渡し式の様子
（志田谷地行政区会）

▲伊藤　康志
大崎市長　挨拶

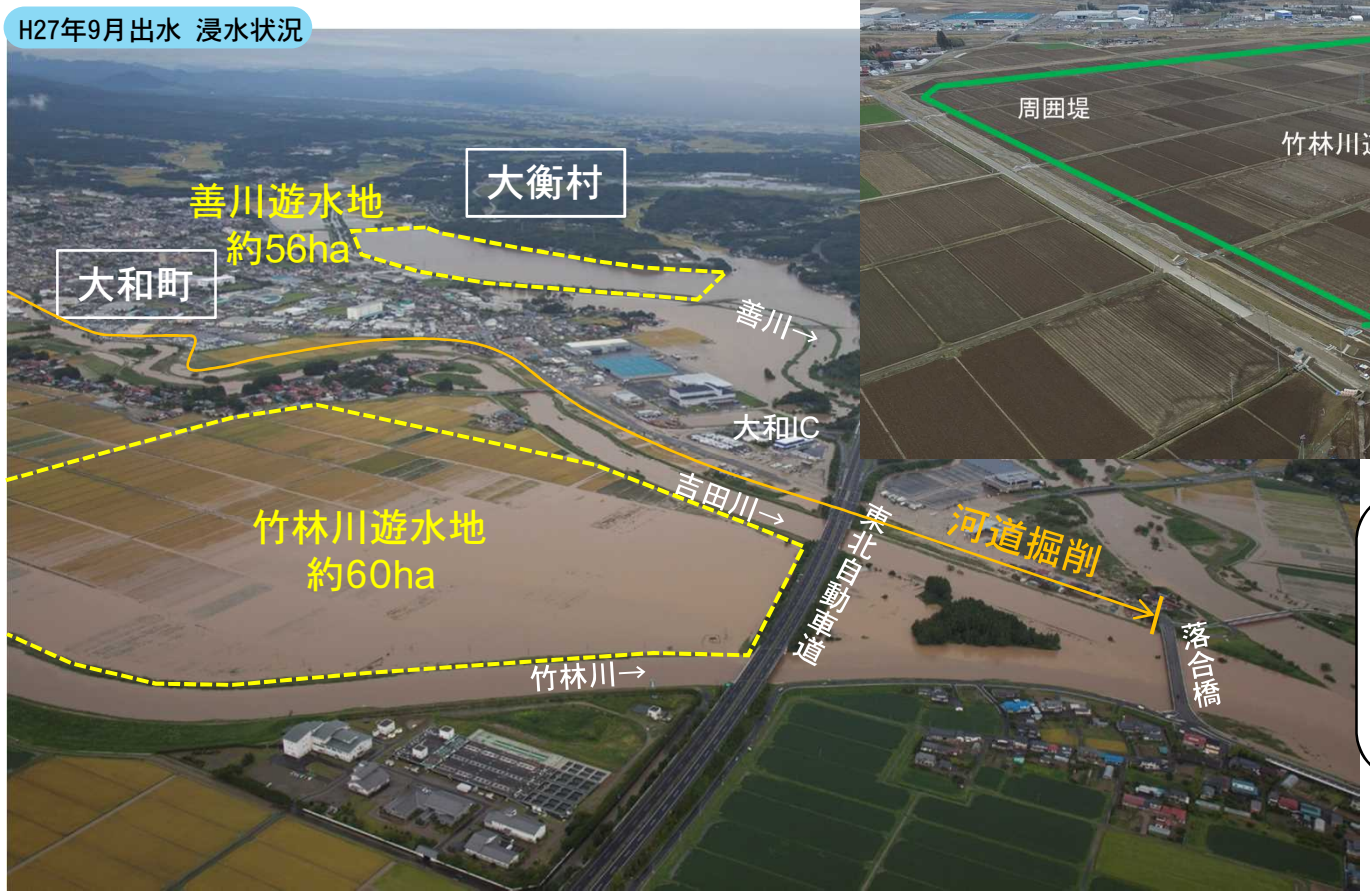
▲石田　和也
北上川下流河川事務所長　挨拶

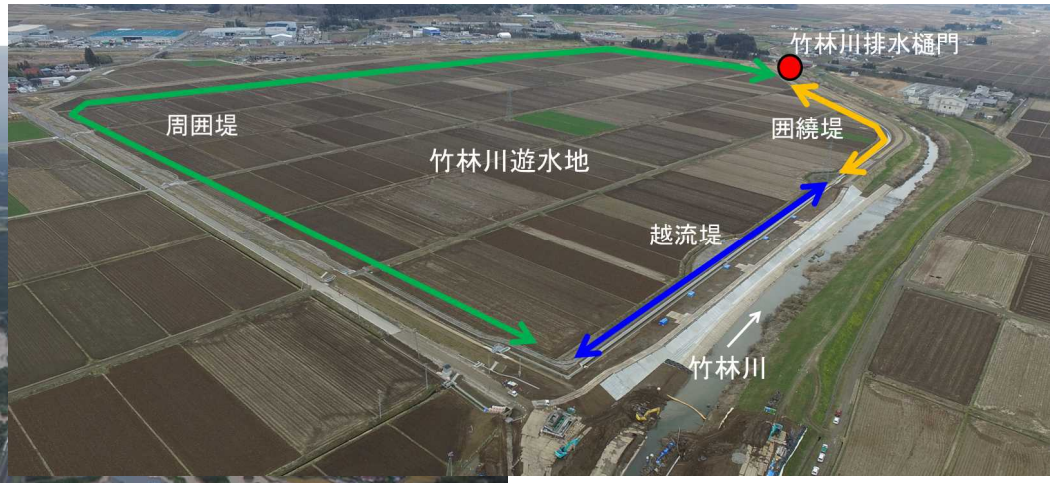
▲武藤　勝実
上志田行政区長　挨拶

感謝状贈呈の様子（丸本組）

吉田川床上浸水対策特別緊急事業の概要

○　平成27年9月関東・東北豪雨により、鳴瀬川水系吉田川流域において局地的に猛烈な雨が降り、2日間の雨量は324mm（既往第2位）を記録。
○　吉田川上・中流部において、床上164戸・床下171戸、浸水面積約1,700haの浸水被害が発生。
○　国と宮城県が連携した床上浸水対策特別緊急事業を平成29年度より実施中。
○　令和4年7月1日から竹林川遊水地運用開始。





＜事業概要＞
【国土交通省】
事業内容：遊水地の整備、河道掘削、築堤
総事業費：約128億円
事業期間：平成29年度～令和4年度
【宮城県】
事業内容：河道掘削、築堤
総事業費：約71億円
事業期間：平成29年度～令和4年度

「令和4年度 北上川下流及び江合川・鳴瀬川総合水防演習」を開催

令和4年5月29日
北上川下流河川事務所

1．日時／実施状況等

○ 出水期を迎えるにあたり、**水防技術の向上及び関係機関と連携した防災体制の強化を図る**ため、水防団をはじめとする実践的な演習や小学生・要配慮者等による避難訓練実施など、地域社会全体が参画した総合水防演習を開催しました。

■ 開催日時　　令和4年5月29日（日）8:30～12:30
■ 実施場所　　江合川左岸（宮城県大崎市古川渕尻字西田地先）
■ 実施した演習　水防工法訓練、情報収集訓練、避難訓練、救助・救出・救護訓練　他
■ 参加機関　　87機関
■ 参 加 者　　国土交通大臣政務官、宮城県知事、大崎市長、
（衆）伊藤議員をはじめとする約3000人
（来賓及び一般見学者含む）

○訓練のポイント
■ 水防技術の向上のための水防技術競技大会を実施
■ 水防災意識向上のための地域住民による避難訓練、自主防災会による簡易水防活動および被災者の救出訓練。農機具の避難など、志田谷地防災センターを活用した避難訓練。

2．実施した主な演習

■ 開会式

加藤
国土交通大臣政務官

伊藤大崎市長

■ 水防工法訓練

水防団による工法
（月の輪工）

水防団による工法
（シート張り工）

体験水防（積み土のう工）
防災エキスパートによる指導

■ ホットライン

石田所長と大崎市長
とのホットライン

■ 地域社会全体が参画した訓練

志田谷地防災センター
を活用した避難訓練

住民による避難訓練
（小学生・住民等）

■ 関係機関との連携による総合的な訓練

救助・救護訓練
（宮城県大崎消防）

救助・救護訓練
（宮城県防災航空隊）

救助・救護訓練
（宮城県警）

■ 東北水防技術協議大会

第14回東北水防技術競技大会
（各県代表消防団）

排水支援箇所　合同現地調査

流域治水への対応が求められている中、自治体からの排水ポンプ車の支援要請が想定される箇所を事前に自治体防災担当者と合同で現地調査を実施した。

東松島市

【R4.6.17】
＜調査箇所＞
・宿浦排水ピット
・東名水門付近

＜参加者＞
東松島市　：総務防災課
北上川下流：鳴瀬出張所
　　施設管理課

石巻市

【R4.6.29】
＜調査箇所＞
・住吉雨水ポンプ場
・不動沢第4ポンプ場

＜参加者＞
石　巻　市：下水道管理課
　　下水道建設課
北上川下流：涌谷出張所
　　施設管理課

涌谷町

【R4.7.1】
＜調査箇所＞
・佐兵治揚排水機場
・上町揚排水機場
・上谷地地内

＜参加者＞
涌　谷　町：総務防災交通班
　　建設課
北上川下流：涌谷出張所
　　施設管理課

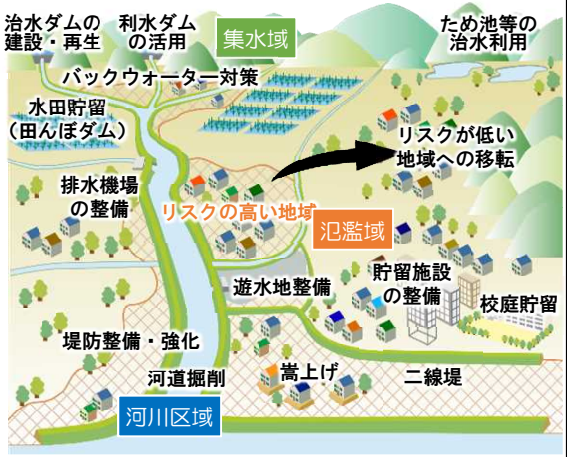
吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」のビジョン

吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」を推進する上では、気候変動により水害が激甚化・頻発化している昨今の状況を踏まえ、引き続き大規模氾濫被害の最小化に向けた、より水害に強いまちづくりの実践が求められます。そのためには、流域のあらゆる関係者が協働して、ハード・ソフト一体で多層的に進める「流域治水」の観点で、このプロジェクトを深化させ対応することが重要です。

流域治水の考え方を踏まえて『吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」』を深化させるためには、新たな利害関係が形成されることも想定され、広域かつ多方面の関係者を交えた議論・合意形成が課題となります。そこで、流域全体で目指すべき将来像を明確にするため、プロジェクトのビジョンを設定し共有を図ります。

プロジェクトのビジョン

流域のあらゆる関係者が協働し、
将来起こりえる災害に対して地域特性に即した効果的な施策を実施し、
人命・地域の生業を守り、安全・安心な社会を形成する



「流域治水」対策を吉田川でイメージ

このビジョンを達成するためには、本プロジェクトで位置付けた取組メニューの推進が必要ですが、一方で引き続き検討すべき課題も残っています。これらの課題を解決し、本プロジェクトの着実な推進を図るために、「流域治水」によるプロジェクト推進の観点（強靭性・持続可能性・包摂性）を踏まえた、ビジョン達成への方向性を明確にし、これまでの枠組みを発展させた新たなステージで実践します。

ビジョン達成への方向性

あらゆる関係者が協働し、水害に対する強靭性と地域の持続可能性を創出する水害に強いまちづくりを実現します

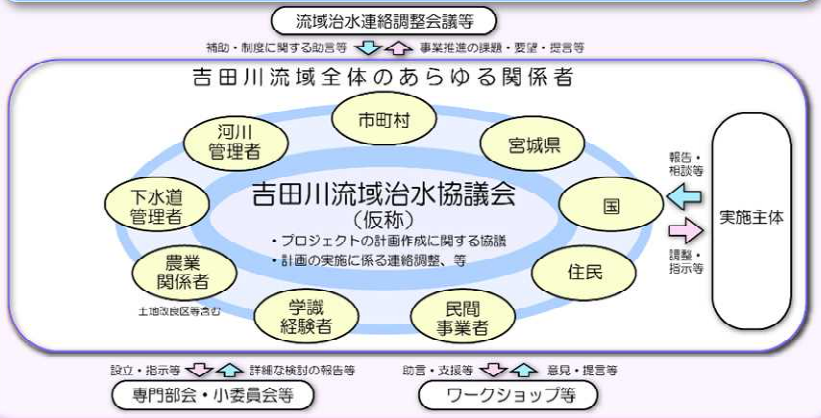
①将来起こりえる災害を見据えた対策目標の設定
将来起こりえる災害に対する被害の最小化を図るため、気候変動の影響等も考慮した対策目標を検討します。

②流域視点での合意形成と地域の特性に即した効果的な施策の立案
人命と生業を守る効果的な施策を、流域全体を俯瞰しつつ合意形成を図り、地域の特性に即した形で検討・立案します。

③あらゆる対策を迅速かつ確実に実施するための事業方策の具体化
流域治水で推進するために、既存制度も含めて事業の財源を確保する事業方策を具体化します。

④あらゆる関係者が協働し、プロジェクトを実現する協議・推進体制の構築
あらゆる関係者が協働する協議・推進体制を構築し、合意形成を図りつつ流域視点に立った一体的なプロジェクトを実現します。

プロジェクト推進の観点

強靭性	持続可能性	包摂性
甚大な被害を回避し、早期復旧・復興を見据えて、事前に備える	将来にわたり、継続して対策に取り組み、社会や経済を発展させる	あらゆる主体が協力して対策に取り組む

プロジェクトを実現する協議・推進体制のイメージ